

平成二十八年十一月二十二日受領
答 弁 第 一 三 五 号

内閣衆質一九二第一三五号

平成二十八年十一月二十二日

内閣総理大臣臨時代理
国 務 大 臣 麻 生 太 郎

衆議院議長 大島 理 森 殿

衆議院議員逢坂誠二君提出ヒラリー・クリントン候補重視の日本外交の問題意識に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員逢坂誠二君提出ヒラリー・クリントン候補重視の日本外交の問題意識に関する質問に対する答弁書

一及び四について

平成二十八年九月十九日（現地時間）に行われた、ヒラリー・クリントン前米国國務長官による安倍内閣総理大臣への表敬は、同前米国國務長官側の発意を受け、調整し、実現したものである。ドナルド・トランプ氏からは安倍内閣総理大臣への表敬に関する提案はなされなかったため、同氏の表敬は実施されなかったところである。

二及び三について

御指摘のような事実はない。

五から七までについて

政府としては、ドナルド・トランプ陣営及びヒラリー・クリントン陣営双方との関係を早い時期から構築してきたところであり、「ヒラリー・クリントン氏だけを重視」したとの事実及び「オバマ政権の次にヒラリー・クリントン政権が誕生すると推測」したとの事実はなく、「情報収集や分析能力には課題があ

る」及び「日本外交の基本姿勢には、基本的な問題意識の欠如がある」といった御指摘は当たらない。